

## 第4学年2組 社会科の実践

1. 単元名 わたしたちの県  
～小単元 特色ある地域と人々の暮らし～

2. 小単元の目標

○県内には、地理的環境などの特色を生かし、まちづくりや産業の発展に努めている地域があることを理解することができる。インターネットなどでの調査活動を通して、学習問題の追究・解決に必要な情報を集め、読み取り、リーフレットにまとめる技能を身に付けることができる。

【知識及び技能】

○特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、比較・分類・整理して地域の様子を捉え、適切にリーフレットにまとめることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

○取り上げた地域の特色について主体的に調べ、考えたことを表現しようとしている。県内の産業の様子を知ることで、島根県に対する誇りと愛情をもつことができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

3. 学習活動について

- (1) 児童について

(一部省略)

。

社会科では今までに、消防、警察、上下水道、ごみ処理の4つの単元を学習してきた。単元導入時に児童の関心や追究意欲を高め、「調べてみたい」という思いを大切にしながら学習問題を設定し、問題解決型の学習を展開してきた。教科書で、「学びのポイント」を参考に学習計画をたて、学習を進めた。見学に行き調べてみたいことを、分類・整理し、共有してから見学に臨んだ。

働いている人から直接話を聞いたり、体験したりして、新たな発見ができることに、すべての児童が、魅力を感じている。また新聞にまとめる際には、見学時の写真を効果的に用いて、紙面をぎっしりと埋めていた。書くことが苦手な児童も、意欲的に取り組む姿が見られた。

本小単元では、本の資料やインターネット等でたくさんの情報を集める計画をしている。しかしながら、自分たちが知りたい情報を取捨選択していく力がまだ身に付いていない児童が多い。

- ・ICT活用に関する児童の実態

児童がICTを使う活動は、4年生になってから数回行っている。その中で、今回使うアプリケーション「キューブきっず ver.5」は、総合的な学習の時間で使っている。久野川に生息する生物をネットで調べた後、個人でプレゼンを作る時に使った。画像をネットから取り込んだり、文章を打ちこんだりすることも経験した。今回使う「ロイロノート」は、総合的な学習の時間に操作の練

習を行った。まだまだ使い慣れていない面もあるが、扱いができる児童を中心に教え合いをしている。これから、さらに活用する場を増やしていく予定である。

## (2) 小单元について

本小单元では、島根県の特徴を考える手がかりとして、県内の特色ある地域の人々の生活を調べる。そのため、県内において、次の4つの町の特産品や取組を取り上げることとした。

- ・出雲市大社町の「ブドウ栽培」…戦前に盛んだった養蚕業が斜陽になり、水はけのよい広大な桑畑の土壌を生かして、ブドウの栽培に着手した。以後、地域の人々が生産出荷組合を協力して作り、戦後、雨の多い気候条件をハウス栽培によって克服した。観光ブドウ園の普及やワイナリーの建設などでまちづくりを進めている。
- ・出雲市多伎町の「いちじく栽培」…地域の人々がお互いに協力し、地形や気候風土を生かして豊かな自然環境を守りながら、加工品の開発や加工・調理体験ができる施設の建設などでまちづくりを進めている。
- ・益田市飯田町の「メロン栽培」…十分な日照量（5月の日照量が日本でも有数と言われるほど）と高い平均気温、一日の適度な気温差、水はけのよい砂壤土などの気候風土を生かし、立体栽培（一本のつるに一つだけ果実を残し日光をたくさん浴びさせる栽培法）で糖度14度以上の高級メロンの生産を実現している。
- ・海士町の「岩がき・白いか・隠岐牛」…片道4時間かかる離島で、海産物の細胞を壊さずに冷凍できる技術（CASシステム）を導入し、ブランド化を図っている。また、「U・Iターン」の推進や「島留学制度」の導入など、過疎化対策にも積極的に取組、元気なまちづくりを進めている。

本小单元は、調べる地域が広範囲になるため、児童が直接、見学や調査をすることが難しい。従って、島根県内の特色ある地域を取り上げるには、児童に馴染みのある食べ物が望ましいと考えた。

ブドウ、いちじく、メロンは、児童にとって馴染みがあり、興味・関心を引きやすく、追究意欲を高めることにつながる果物である。

岩がき・白いかは、児童には馴染みが少ない。しかし、少子高齢化・過疎化がすすみ、人口の流出が深刻な問題になっている島根県の現状を知るには、海士町は、適切な地域である。離島というハンディキャップがありながら、赤字財政の中、独自のシステムを導入し、収益を上げて黒字に転じ、同時にU・Iターン者への支援を積極的に行い、閉校寸前の高校が「島留学制度」を導入するなどして、人口増を実現した。町民あげての元気なまちおこしに取り組む人々の思いに触れることで、将来への明るい展望をもてると考える。

## (3) 指導に当たって

### 研究の視点(1)

#### 【①教材・学習課題との出会いの場の工夫】

小单元導入の場面では、島根県の特産品のうち、前述の4つの特産品の写真を十分に準備しておき、それを提示しながら、自分の経験を想起させる。その特産品への思いを出し合うことで、児童の興味・関心を十分に高めたい。どの特産品を調べるかを決める時は、「自慢したい島根県の特産品は？」と投げかけることで、児童の追究意欲を高めたい。

児童の希望をもとに、4～5名のグループを4つ作る。グループ活動を活性化させるため、

思考力・判断力・行動力のある児童をグループのリーダーに指名する。

【②ねらいや学習課題、学習の流れの明確化】

学習計画表を作成し、「つかむ」「調べる」「まとめる」「生かす」の場面ごとの学習活動を掲示しておく。児童が常にゴールを意識しながら、グループで課題を解決して行くことができるようにする。

【③まとめや自己評価・相互評価による振り返りの場の設定】

「調べる場面」の最後に、リーフレットの発表会を行い、よいところを伝え合う時間を確保することで、充実感や達成感を味わわせたい。

「生かす場面」では、仕上げたリーフレットを校舎内や町内に掲示し、情報を発信する。感想を寄せてもらい、島根県への愛着心をもたせたい。

研究の視点（２）

【①個人思考を深める手立てや位置づけの工夫】

児童が調べ活動に入る前に、４つの町について調べ、準備をしておく。インターネットの有効なサイトを調べ、ヤフーキッズの「おすすめサイト集」を作っておき、配布する。また、事前に先方と電話やメールの内容を打ち合わせておく。学校司書に協力を依頼し、パンフレットや書物を取り寄せておく。

調べ学習に入る際には、予め指導者が作成したリーフレットを例示し、見通しをもたせる。

調べる際には、次のような調べ学習の視点として、３つ掲示した。毎回ふり返ることで、３つの視点を意識して調べさせることが必要だと考える。

《調べ学習の３つの視点》

- ① なぜ、盛んになったのか。（地形、気候風土、土地利用、生産者の苦勞や工夫、資源、歴史的背景）
- ② どのくらい盛んなのか。（他の産地との比較、人気度）
- ③ 特産品を生かしてどのような取組をしているのか。（まちづくりに賭ける人々の協力・思い）

内容を深めるために、毎時間ワークシートに目を通し、リーフレットに載せた方がいいと思われるところに、アンダーラインを引いたり、アドバイスを書いたりしておく。

生産者の方とのつながりがもてるよう、電話取材は、どの児童にもさせる。電話でインタビューする内容は、児童と相談して決め、インタビュー後は、グループ全員で共有しておく。

インターネットと電話で調べても分からない場合は、事前に取り寄せたパンフレットやメール等の方法で調べる。また、意味が分からない言葉は、国語辞典で意味調べをさせ、理解させておきたい。

【②ペア学習やグループ学習など、思いや考えを表現する場の工夫】

調べ学習は６時間を予定している。まず、グループ内で３つの視点のどれを担当するか、役割を決めて調べ学習を始める。調べて分かったことや分からないことを持ち寄り、リーフレットの内容を箇条書きで整理する時間を確保する。そして、自分たちで、調べる方法や調べる内容について方向修正するようにしたい。また、調べた内容は３つの視点に沿って分類し、必要な情報かどうかをグループで話し合う場を設定する。

リーフレットにまとめる活動は、4時間を予定している。グループで相談して、リーフレットに載せることと、分担を決め、作業に入る。ローマ字入力には個人差があるので、協力して作業をさせたい。ある程度できてきたら、印刷して見せ、内容を中心に見直しをさせていく。必要に応じて、指導者がアドバイスをする。

### 研究の視点（3）

#### 【①情報収集、整理分析場面でのパソコンやタブレット端末の利用】

「調べる場面」では、パソコンやタブレット端末を使って、インターネットで情報収集を行う。ヤフーキッズの「おすすめサイト集」を活用して検索し、ワークシートにメモしていく。また、リーフレットに載せたい写真を、キューブきっずのポケットにデータとして保存しておく。

#### 【②発表場面で、根拠資料としてのタブレット端末の利用】

「まとめる場面」では、グループで分担して、キューブきっず ver.5 を使ってリーフレットを作る。テンプレートから作ることができ、作りやすい。

PC 教室のPCを使って作ることになるが、作ったリーフレットは、教室用PCで見たり、スクリーンに映し出したりすることができる。

本時は、2つのグループが作ったリーフレットを、調べ学習の3つの視点に沿ったものにするために、話し合いを行う。ロイロノートを使って、リーフレットの画像に、直したらいいと思うところは印をつけたりコメントを書いたりして提出させる。ノートに理由をメモしておき、意見交換をさせる。よりどころとするものは、3つの視点である。自分のグループが調べたことと比較しながらアドバイスできるよう、支援したい。

### 4. 本小単元で身に付けたい力

県内の地理的環境や産業の特色を調べるという学習課題を解決する中で、県内の地域の特色について収集した情報を取捨選択し、まとめる力。

### 5. キャリア教育の視点

友達と協力して課題を解決する。（課題対応能力）

### 6. 指導計画と評価計画（全18時間 本時14／18）

次	時	主な学習活動	評 価			
			知識 技能	思・ 判・ 表	主体的 に学習 に取り組 む態度	主な評価規準（評価方法）
一 つ か む	1 2	県内の特産品を知り、自慢したい特産品を4つ決める。学習計画表を作り、見通しをもつ。			○	主島根県内の特産品に興味をもち、なぜ盛んになったのか等を調べようという意欲をもっている。（発言）

口調べる	3 4 5 6 7 8	なぜその産業が盛んになったのか、どの程度盛んなのか、特産品を生かしてどんな取組をしているのか、調べる。 (インターネット、パンフレット、メール、電話などの活用)	○	○	○	<p>知なぜその産業が盛んになったのか、どの程度盛んなのか、特産品を生かしてどんな取組をしているのかを理解している。(ワークシート)</p> <p>思調べ学習の3つの視点に沿って、産業の様子を捉えている。(ワークシート)</p> <p>主県内の産業の様子について意欲的に調べている。(観察)</p>
目まとめる	9 10 11 12	リーフレットにまとめる。		○	○	<p>思適切にリーフレットにまとめている。(ワークシート)</p> <p>主調べたことや考えたことを意欲的にまとめようとしている。(観察)</p>
	13 14 (本時)	よりよいリーフレットにするために、みんなで話し合う。		○		<p>思調べ学習の3つの視点に沿って、必要な事柄がまとめてあるか、分かりやすくまとめているかを考え、自分なりにアドバイスをしている。(発言、ノート)</p>
	15 16	アドバイスをもとに、リーフレットを見直し、仕上げる。		○		<p>思友達のアドバイスを生かし、適切にリーフレットにまとめている。(リーフレット)</p>
	17	発表会をし、よいところを伝え合う。			○	<p>思3つの視点に沿って、リーフレットをまとめ、分かりやすく発表している。(観察)</p> <p>主互いによさを認め合うことで、充実感・満足感を味わっている。(ノート)</p> <p>主島根県に対する誇りと愛情をもっている。(ノート)</p>
	18	リーフレットを校内や木次町内の施設等に掲示する。			○	<p>主感想を交流することで、より充実感・満足感を味わうことができる。(ノート)</p>

## 7 本時の学習

### (1) 目標

調べ学習の3つの視点に沿って、必要な事柄がまとめてあるかを考え、自分が調べたことと比べてアドバイスすることができる。【思考力・判断力・表現力】

(2) 展開

	学習活動と予想される児童の反応	教師の支援 (○) 評価 (【 】) ICT活用
つかむ	1 本時のめあてを知る。 自分が調べたことと比べて、アドバイスできる。	○調べ学習の3つの視点を掲示しておく。
考える	2 2つのグループが、3つの視点に沿って、リーフレットの発表をする。 ①なぜ、盛んになったのか。 ②どのくらい盛んなのか。 ③特産品を生かしてどのような取組をしているか。 3 自分たちが調べたことと比べてよかったところや直した方がいいと思うところにアンダーラインを書き込み、提出する。 二人で1台のタブレットを使い、ペアで話し合いながらアドバイスを書き込んでいく。	○発表の話型を示しておく。言葉を付け加えて発表するよう促す。 ○あらかじめ、リーフレットを画像にして児童のタブレットに送信しておく。 ○ロイロノートの使い方を掲示しておく。
広げる	4 よりよいリーフレットにするために、アドバイスをする。 5 ふりかえりを書いて発表する。 ・アドバイスを聞いて、～のところを○○に直そうと思いました。 ・自分たちの班は、グラフを使っていたので、「人気度がよく分かるように、ぼうグラフにするといい」というアドバイスができてよかったです。	○リーフレットのどのページがどの視点なのかが分かりやすいよう色分けをしておく。 ○発表中、教師は伝えたい内容の画像や文章を拡大するなどの支援をする。 ○拡大コピーしておいたリーフレットに、お互いのアドバイスを共有できるように教師がアドバイスを書き込んでいく。 ○ノートに書かせてから発表させる。アドバイスに対する作り手の思いも語らせたい。  【思考力・判断力・表現力】調べ学習の3つの視点に沿って、必要な事柄がまとめているかどうか、自分が調べたことと比べてアドバイスすることができる。(発表・タブレット端末・ノート)
まとめる		

(3) 評価

評価の観点	十分満足と思われる児童の姿	おおむね満足と思われる児童の姿	支援が必要と思われる児童への手立て
思考力・判断力・表現力	調べ学習の3つの視点に沿って、必要な事柄がもれなくまとめているか、自分が調べたことと比べてアドバイスすることができる。	調べ学習の3つの視点に沿って、必要な事柄がもれなくまとめているか、アドバイスすることができる。	調べ学習の3つの視点を示し、必要な事柄がもれなくまとめているか、一緒に考える。

(4) 研究の視点

調べ学習の3つの視点に沿って自分が調べたことと比べてアドバイスを考えさせたことは、より具体的なアドバイスにつなげるために有効であったか。

## 8. 指導の実際と考察

### (1) 教材・学習課題と出会いの場の工夫 …研究の視点(1)

本小単元の前の単元では、島根県全体の特産品について学習した。地域ごとに様々な特産品があることを知り、もっと知りたい、調べてみたいという意欲を引き出した。児童は、給食に出される食べ物や果物に強く関心を寄せた。そこで、平田町の特産品である西条柿と他の地域の柿とを食べ比べすることにした。平田町の西条柿はたいへん甘く、他の地域の柿と味が違うことを実感した。平田町の柿は、なぜこんなに美味しいのかという疑問がわき、他の特産品も同じように美味しさの秘密があるのではないかという声が上がった。

本小単元で調べる4つの特産品の写真を示し、グループに分かれて調べることを知らせたところ、児童は自分が調べたい特産品を決め、4つのグループに分かれた。グループ活動の要となるリーダーを決めたことで、調べ学習を進める上で、誰が何を調べるかをスムーズに役割分担することができた。児童の実態に合った学習課題をもたせることで、児童の興味・関心を高めることができたのではないかと考える。

### (2) 個人思考を深める手立てや位置づけの工夫 …研究の視点(2)①

調べ学習に入る際には、調べ学習の3つの視点を掲示した。(図1)これらは、本小単元の目標である「特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目する」ことにつながるものであった。

調べ学習のグループ内で、この3つの視点のどれを担当するか決めて、関連した資料を収集した。インターネットには、たくさんの情報があふれており、集めた資料がどの視点になるのかが分からないことが多く、情報を正しく取捨選択する力をもっと身に付ける必要があると感じた。

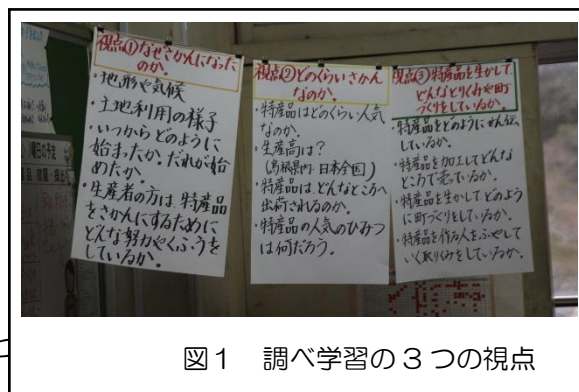


図1 調べ学習の3つの視点

それぞれの特産品の生産者の方とのつながりがもてるよう、電話取材を行った。事前に児童と質問内容を考え、生産者の方にファックスを送った。インターネット等では分からなかった内容があり、リーフレットづくりにたいへん参考になった。また、どの地域でも生産者の高齢化等で、生産者の減少傾向があることが分かった。島根県の農業全体を知るうえで、重要な情報だった。

### (3) ペア学習やグループ学習など、思いや考えを表現する場の工夫 …研究の視点(2)②

調べ学習のグループは4~5人のグループで、一つの視点を調べる際にはペア学習になるようにした。ペア学習にしたことで、分からないことができて、互いに話し合ったり国語辞典で調べたりして、自分たちで解決しようとしていた。収集した情報の中には、難解な漢字や言葉が出てくる。それらを4年生でもわかる言葉にするにはどうすればよいかという話し合いができたグループもあった。

調べたことを分かりやすく表現するために、文章だけでなく、どの写真や図をリーフレットに入れればよいかということもペアやグループで何度も話し合う姿が見られた。

#### (4) 発表場面で、根拠資料としてのタブレット端末の利用 …研究の視点(3)

「まとめる場面」では、「キューブきっず ver.5」を使って、リーフレットをまとめた。リーフレットは4ページの構成で、表紙にメンバーの名前、3つの視点ごとに1ページにまとめるようにした。

本時では、「ぶどう」と「岩ガキ」のグループが発表した。タブレット端末にリーフレットの画像を保存し、スクリーンに大きく映し出すことで、発表者が今、何を発表しているのかが分かるようにした。(図2)

リーフレットの発表の後、二人で1台のタブレット



図2 リーフレットの発表場面

を使用し、ロイロノートにアドバイスを書き込んでい



図3 ロイロノートの活用場面

った。予め、送信した画像には、視点1はオレンジ、視点2は黄色、視点3は緑というように色分けをしておいた。児童がアドバイスをしやすいように、グループ内で誰がどの視点についてアドバイスをするのかを決めて活動した。(図3)二人で1台を使うことで、ペアで話し合うことができ、自分一人ではなかなかアドバイスができない児童も友達と協力しながら活動することができた。ペア学習を取り入れることは、友達と協力して課題を解決するというキャリア教育の視点

となると考える。ロイロノートは、自分たちが書き込んだアドバイスを教師に送信し、黒板のスクリーンに映し出すことができる。児童は、ロイロノートの扱いに慣れており、アドバイスを書き込み、送信するという作業を短時間で行うことができていた。しかし、研究協議では、アドバイスが一方通行になっていたり、何をアドバイスすればいいのかははっきりしていなかったりしていたという意見があった。今後は、アドバイスをする側と受ける側と意見のやり取りをしたり、より良いアドバイスに対するの評価をしたりすることで、児童同士の対話が生まれるようにしたいと考える。

#### 【成果と今後の課題】

今回の実践では、児童が使うICT機器の活用を意識して授業を展開した。インターネットから情報を収集し、取舍選択しながら、リーフレットにまとめていく学習は児童にとって、学習意欲を高め、主体的に学びに向かう姿勢を育てることができた。今回使用した「キューブきっず」は何度も修正ができ、自分たちが伝えたい情報を書き込むことができるので、学習に取り組みやすいことが分かった。

しかし、本単元での目標である「特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、比較・分類・整理して地域を捉える」ことに関しては、調べた地域が4つに分かれたため、十分に比較・分類・整理したとは言えない。調べた4つの地域の共通点や相違点をさらに掘り下げ、社会的な見方・考え方につなげていく必要があった。そこで、リーフレットが完成した後、研究協議を受けて、4つの地域の共通点を調べる時間を取った。そうすると、それぞれの地域の生産者の方々の様々な工夫には、共通した願いや思いがあることが分かった。県内の産業の様子を知ることが、5年の社会科の農業の学習につながっていく。4年で学習したことが次の学年の社会科とどうつながっていくかを意識した授業研究をさらに進めていきたい。